

## 第2回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会 安心・安全向上WG部会 議事録

- 日時 平成24年3月19日(月) 19時45分から20時20分まで
- 会場 美濃加茂市生涯学習センター203会議室
- 参加者 美濃加茂市 佐合茂樹 委員  
美濃加茂市 八田善明 委員(副部会長)  
坂祝町 金武政博 委員  
川辺町 加藤賢 委員(部会長)  
富加町 市原正隆 委員  
七宗町 松山有広 委員  
八百津町 池井戸弘子 委員  
白川町 安江兵吾 委員  
東白川村 今井政信 委員

事務局 美濃加茂市 定住自立圏推進室 遠藤比路子  
美濃加茂市 福祉課 岩井正義  
富加町 総務課 石井秀樹  
東白川村 総務課 伊藤保夫

欠席 美濃加茂市 安藤道弘 委員

### 1 開会

事務局：本日の出席者、欠席者を確認。欠席者にも資料が送付してあり、意見を徴収中であることを確認。

### 2 部会長挨拶

### 3 自己紹介

### 3 WGの趣旨説明

事務局：第3回共生ビジョンの変更における「安心・安全向上分野」の10事業及び現在実施中である「福祉サービス従事者スキルアップ支援事業」について、ご意見をいただきたい。

### 4 共生ビジョンの変更案について(共生ビジョン P10~19)

事務局：白川町、八百津町、東白川村との協定締結を反映した内容に変更。

#### 「1. 救急情報共有連携システム」について

事務局：事業説明。木沢病院で交付している「メディカカード」の事業です。ビジョンにある事業費は木沢記念病院の予算で、木沢記念病院に費用を負担いただいている。

「2. 休日急患診療事業」について

事務局：事業説明。

「3. 基幹医療機関常設ヘリポート設置検討事業」について

事務局：事業説明。

八田委員：災害拠点病院にヘリポートがない状況であり、ヘリポートがないとヘリを使った移送の一部に車を使うので患者の負担となる。昨年の震災によって、以前より需要が高まっている。県のドクターヘリも運用を開始しており、ヘリポートがあることでより活用できる。

池井戸委員：八百津町にもドクターヘリが来たと聞いた。ヘリの使用料は個人負担になるのですか。

八田委員：費用は、通常の治療費のみで、ヘリの使用料の負担は必要ありません。

松山委員：建設費はどれくらい必要なのですか。

八田委員：既存の木沢記念病院を改修する形での設置には、3億8千万円程必要です。

佐合委員：既存の建物への設置は、補強に多くの費用がかかる、病院周辺の駐車場などを使った平地への設置で費用をおさえられるが、航空法の許可がおりない。

「4. ファミリー・サポート・センター広域実施事業」について

事務局：事業説明。美濃加茂・坂祝・川辺が参加して連携している。平成23年12月末で利用会員748人、サポート会員77人、計832人の会員である。新たに参加する白川町の利用会員が美濃加茂市のサポート会員に子どもを預けるなどの利用は少ないかもしれないが、サポート会員が受ける研修を合同でできるなどのメリットはある。

「5. 福祉サービス従事者スキルアップ支援事業」について

事務局：後で協議します。

「6. エリアサービスマップ（ホームページ開設）事業」について

事務局：事業説明。現在、市町村の担当者による協議中で、平成24年度には事業を開始できる予定です。介護施設や育児施設が探しやすいサイトを目指している。子育て中のお母さん達は、ネットを多く使うため、効果が期待できる。

「7. 幼児療育支援事業」について

事務局：事業説明。子ども達の障害の程度が様々で、幅広い対応が必要である。広域で連携し、相談することで強化できる。研修なども合同で実施できる。

「8. 可茂特別支援学校関係学童保育事業」について

事務局：事業説明。県が運営する学校で、既に開校しているがプール等が整備途中である状況。現在184人の生徒が通学しているが、学校の整備途中ということもあり、学童保育まで手が回っていない状況です。

「9. 地域福祉活動の推進事業」について

事務局：事業説明。行政のプロジェクトで話し合い中だが、良いアイデアが出ない状況です。

「10. 介護保険の共同運用事業」について

事務局：事業者に対する給付適正化の研修の共同実施にむけ、4月から内容をつめていく予定です。

「5. 福祉サービス従事者スキルアップ支援事業」について

事務局：美濃加茂・川辺・坂祝の介護職の方にアンケートを実施したところ、既に取得している資格より上位の資格の取得や補助を受ける意思について、前向きな回答が7割以上あった。補助金の申請状況について、平成23年度はこれまでに22人の申請があった。平成24年度の実施に向け、補助金額や対象となる資格等について検討していきたい。

「45. 防災・安全情報共有事業」について【新規追加事業】

事務局：事業説明。

八田委員：どれ程の災害を想定しているのかわからないが、大規模な地震では、全市町村に被害が出ており、近い所で協定しても機能しないのではないかと。局地的な災害であれば有効である。

安江委員：郡内の町村でも災害時の対応はまちまちである。これまでの経験やノウハウを伝える機会がない。

佐合委員：備蓄品や災害対策は市町村行政で対応する問題であるが、連絡体制や備蓄品等の情報を共有することは有効だと思う。

金武委員：地域でコーディネーターや災害ボランティアを育てることが大切。坂祝町では、ボランティアコーディネーターの受講者が多数いるが、活躍する場所がない。地域の人達が自分たちで連携することが大切である。

市原委員：ビジョンの目的に記載のある「大規模災害」での連携は難しいのではないかと。まずは自分の町、現実的には隣近所で助けあうことが優先される。局地的な災害時に助け合う事にした方がよい。

八田委員：マルチタスク無線の統一化や備蓄品の共有など、現実的な連携が大切ではないかと。

5 終わりに

事務局：本日いただいた意見は、調整のうねビジョンの変更に反映させていく。他にも意見等があれば、3月23日までに、お住まいの町村か美濃加茂市に連絡ください。ビジョン懇談会委員の任期が終わるが、引き続き委員を務めていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。